

上田でミニ同期会 ～インドから田中裕子さんが帰国して～

宮原 豊（9組）

去る5月10日（水）、インドから田中裕子さん（5組）が帰省されるとのことで、布施修一郎君（6組）の呼びかけで、ミニ同期会が開催されました。場所は、上田市中央3丁目の割烹「京や」の2階和室。次々と運ばれる絶品の日本料理に程よいお酒で、和気藹藹と楽しい時間を過ごしました。

集まったのは田中さんと布施君の他に、小山田秀士君（7組）、荻原薫君（8組）、増澤賢一君（9組）・啓子さん（旧姓小林、4組）ご夫妻、筆者（宮原）の7人でした。クラスもバラバラだし、出身中学も違うし、田中さんとどういった関係かはっきりしませんでした。高校時代の思い出などを話しているうちに、あの頃のほろ苦い記憶が甦ってきました。

そもそもは、昨年11月～12月の約3週間、仏教発祥の地インド・サールナート（鹿野苑）の初転法輪寺（ムーラガンダ・クティ・ビハラ）の本堂内に、日本画家・野生司香雪が80年以上前に描いた日本画の仏伝壁画保全修復に関わった顛末を2回にわたり65期HPに投稿したことから始まりました。その中で、田中さんご夫妻が4月～6月頃に帰国予定と書いたところ、それを読んで布施君が田中さんを囲む小宴をセットしてくれたものです。

そこに増澤夫妻、さらに小山田君と荻原君が加わり上記の7人となったようです。話をするには人数も丁度良く、昔話に深入りしましたが、田中さんが何故インドに行き、何故インドに住んでいるのか、もっと詳しく聞きたいと思っていたのに、聞き上手な田中さんの手に掛かり、布施君や小山田君や荻原君の知られざる昔話を聞き、時間の過ぎるのも忘れず。布施君の42年前の南極隊員の経験、小山田君のバンカラな高校・大学時代のこと、荻原君のUターンした頃のこと、いつまで経っても少年のようで一見強がりです。亭主関白な増澤君のよきパートナーの啓子さんのこと、田中さんが受かった東京外語大、早大、中央大を1年生の時に全部受講していたことなど。

田中さんとは翌々日、長野市善光寺近くの北野カルチュラルセンターで開催された「野生司香雪展」の開会式でまたご一緒しました。今回は9月まで日本にいます。



左から荻原、小山田、増澤啓子、田中、布施、宮原、増澤賢一
(2023年5月18日) 以上